

介護老人保健施設しおさい リハビリ部門 作業療法士 高田翔

功 績	高田のご利用者に対する愛情を持った親身な対応と地域ケアマネとの連携、ケアワーカーとのチーム力により、通所ご利用者のやる気と満足度の向上、さらに5月、6月の予算達成に大いに貢献した功績。
推 薦 者	杉山 真由美
推 薦 理 由	高田のご利用者の希望に寄り添うということを大切にしているリハビリが、機能回復だけでなく精神面（やりがい）も向上させるなどの成果を出しています。その結果、自主訓練プログラムを能動的に取り組むようになり、さらに機能訓練が充実したことで通所利用増しに繋げ、6月の予算達成に貢献した功績を評価して理事長賞に推薦します。

内 容

高田は、通所リハビリテーション担当のリハビリスタッフです。

西伊豆町・松崎町には回復期に対応するリハビリ施設はなく、しおさいの通所リハビリテーションは地域リハビリテーションの要として期待されており、ご利用者が住み慣れた地域、在宅で少しでも長く生活したいという希望を叶えるため、日々職員一人一人が尽力しています。

ご利用者の利用目的は、他地域と同様、歩行能力の維持改善が割合が高くなっています。殊に、しおさいが位置する地域は高齢世帯が多く、傾斜地の多い地域で下肢機能が低下すると即座に外出困難になるなど、生活に大きな支障をきたしやすいという問題があります。他地域にもまして下肢機能の維持・改善に対する要望は切実なものでした。しかし、しおさい通所リハビリテーションのリハビリスタッフの人員は地域性もあり、限られ、なかなか叶えることは出来ません。

高田は人がいないことは何も提供しないという理由には繋がらないと、現在の人員でこの問題に対して何かできないかと考えました。

そこで、運動機能の向上を図るため個別リハビリ以外は、余暇時間を過ごす方も多かったことに着目し、高田はケアワーカーに集団体操プログラムを提供し、しおさいに来てから帰るまでの間に全体体操・小集団訓練・個別訓練・自主トレーニングと毎回多彩な運動プログラムを提供できるよう通所プログラムの見直しを行いました。

また、個別自主訓練プログラム実施中は、リハビリスタッフが少ないことをカバーするため、ケアワーカーとの連携を密にとり、見守り依頼することで危険回避、実施中の様子を確認するなど、細かな情報の共有を図り、限られたスタッフの中で、ご利用者に少しでも寄り添えるよう対応しました。その結果、利用者同士が励ましあい競い合って自主訓練に取り組まれる姿が増えていきました。

一事例として、しおさい通所リハビリテーションを令和3年8月から開始、令和4年1月やっと杖歩行が可能となったご利用者がいらっしゃいます。ご利用者は令和4年2月新型コロナウイルス感染症に罹患し、自宅療

養中約1ヵ月間ベッド上での生活となったことで、体調が回復してからもベッド上での生活が中心となりました。

しおさい通所リハビリテーションを再開したものの身体機能低下、意欲低下は著明でした。

高田はご利用者に合った個別自主訓練プログラムを作成、個別機能訓練ができない場合でもケアワーカーと共に充実した機能訓練を提供しました。

個別自主訓練プログラム中や終了時、ケアワーカーからの情報を基にアドバイスが可能となったことご利用者と地道に信頼関係を築いていき、QOL,ADLの向上、意欲向上が芽ばえ、通所リハビリテーションに通うことがご利用者にとってやりがいに繋がり、もっと利用したいということで、週1回の利用から、週3回に利用増をして機能訓練に励み、今でもご利用者が希望する住み慣れた地域、在宅での生活を送られています。

高田の行動で、ご利用者が積極的に自主トレーニングに励まれるようになり、機能訓練のためにしおさい通所リハを選び、利用したいという地域ケアマネからの問い合わせも増えています。

高田は通所リハプログラムを運動強化できるプログラムへグレードアップしたことが、ご利用者のやりがいとなり、「機能訓練がもの足りない」と利用しないご利用者の削減、これならもっと利用を増やしたいという声、休みがちだったご利用者が、体調不良以外で休むことが少なくなり、約20回/月の利用に繋げ、確実に通所リハビリテーションのキャンセル減少と、利用増しによる収益増加、満足向上、5月と6月の予算達成に大いに貢献しています。